



中部ひとまもり・まちまもり協議会の地域ビジョン

地域ビジョンとは、ひとまもり・まちまもり協議会がこれからの地域をより良いものにしていくためにはどのように活動すればよいかを示す指針です。将来を見据えたまちづくり活動を行うための体制づくりのきっかけとなるものであり、住民と自治体等が対等なパートナーとして、ともに理想の地域を築くための道しるべです。この度、中部ひとまもり・まちまもり協議会としての今後のまちづくりの指針となる「地域ビジョン」を策定しました。

■ 地域ビジョン

地域に根付いた協議会で
「持続可能な住みよいまち」へ

中部ひとまもり・まちまもり協議会の
目指す地域づくり

本協議会は、学校などと連携して、地域住民と子どもたちの交流を深める取組を中心に活動してきました。自治会をはじめとする地域の団体と住民をつなぐ役割を果たしながら、多世代交流の実現に向けて活動を続けています。

しかし、協議会の組織や役割がわかりにくいという声もあり、自治会の取組との住み分けや、協議会活動の目的をさらに明確にしていくことが求められています。そこで、本協議会では、住民が参加する取組のお知らせや報告に加え、日々の活動内容を積極的に発信することで、地域全体に協議会の意義を伝えていきます。また、新たに企画側として参加する人材を募集し、多くの住民が主体的に地域づくりにかかわるきっかけを提供していきます。

地域に協議会の存在や活動を根付かせることで、世代を超えて誰もが安心して暮らし、夢や目標に向かい、未来へ歩んでいけるまちを築いていきます。

■ひとまもり・まちまもり協議会とは

ひとまもり・まちまもり協議会は、多様な人や団体が連携して、住民が力を合わせて主体的に地域づくりを行う新たな地域コミュニティです。地域住民が中心となって、地域の特性をいかながら連帯感を高め、将来を見据えた地域づくりを行っています。自治会を含めた多様な主体や幅広い人材が連携・協力することにより、様々な課題に対して、ネットワークをいかした自主的・効果的な取組が期待できます。

地域ビジョン策定について

地域ビジョン策定にあたり、住民の声を反映するためにワークショップを実施しました。中部ひとまもり・まちまもり協議会の現状と課題についての整理を行い、活動するうえでの活動目標と活動方針を整理しました。

■ 中部ひとまもり・まちまもり協議会の今後の活動目標

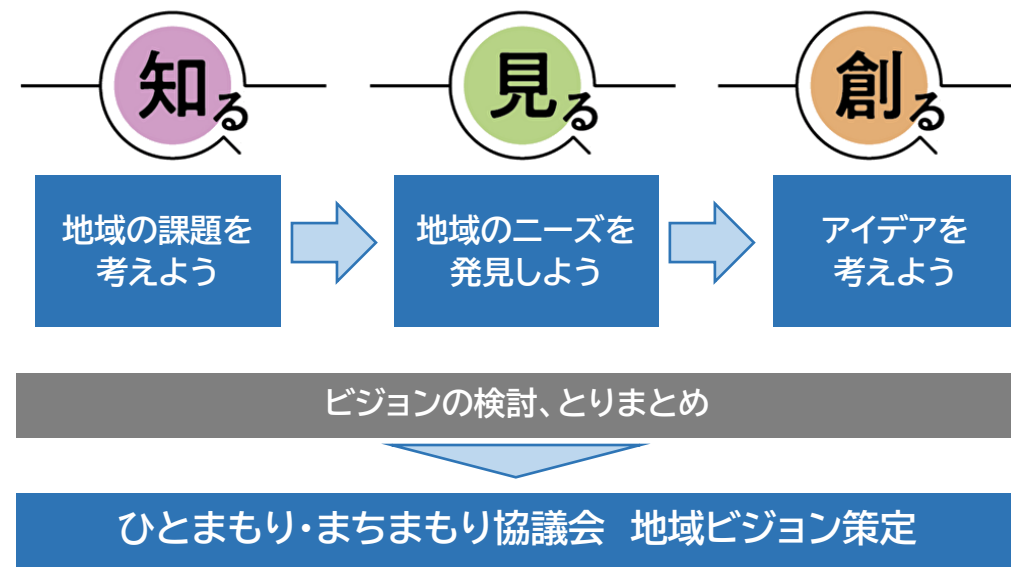
活動目標①	協議会の役割の明確化と関係団体との連携
求められていること	●組織体制の見直しを実施することで、組織の目的や目指すべき姿を明確化する ●地域に賑わいを創出する組織を目指す ●アイデアを積極的に活用できる仕組みづくり ●若者が活動の中心になれる組織になる ●協議会全体で実施する活動をつくる
活動方針	協議会の役割を明確化し、関係団体との役割分担、連携をして協議会としてすべき活動をします。

活動目標②	効果的な情報発信で、住民の参加を促進
求められていること	●チラシや SNS などを活用した広報を実施する ●活動の目的や魅力が伝わる情報発信をし、新規参加者を増やす ●防災に関する情報を積極的に発信する ●企画側として参加したくなるような情報を届ける
活動方針	日常的に実施している活動に関して効果的に情報を発信し、取組内容を広め、住民が積極的に参加する協議会にします。

活動目標③	多世代交流と地域参加の拠点づくり
求められていること	●多世代が交流できる活動や、気軽に集まれる拠点をつくる ●地域住民の声(ニーズ)を聴く機会をつくる ●住民同士の情報交換の場がほしい ●運動施設や学校など既存の施設の有効活用 ●放課後に子どもが集まれる場所をつくる ●地域にかかわりたい人たちが気軽に参加できる仕組みをつくる
活動方針	住民が気軽に集まることができ、協議会活動の中心となる拠点をつくることで、幅広い世代で活動できる地域にします。

課題解決ワークショップの開催について

地域ビジョン策定にあたり、住民の声を反映するために、「持続可能なまちづくり」をテーマとし、デザイン思考を用いた「課題解決ワークショップ」を全3回にわたり実施しました。



デザイン思考

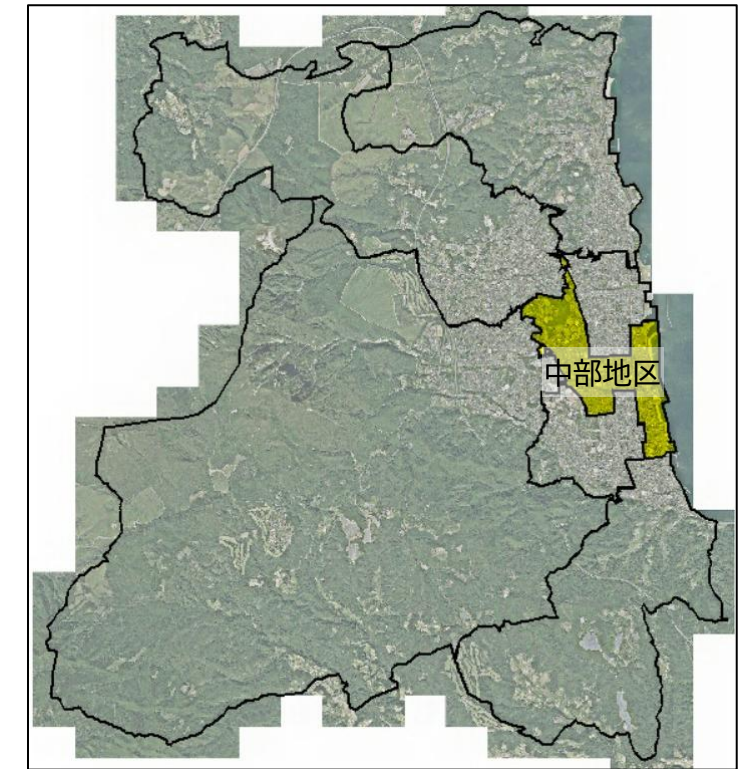
問題を解決するための思考法の一つです。課題を洗い出した後に、重要な問題を特定することで真に解決が求められている本質的な問題はなにかを考えます。この問題に対し、どう解決していくかアイデアを出し合い、実行プランへと具体化します。意見を出し合い、重要なものに絞り込んでいく過程を繰り返すことで、普段可視化されていなかった潜在的な課題や対応が必要な事項を探り出すことができます。

中部ひとまもり・まちまもり協議会の概要

■ 地区の基本情報

設立	平成30年11月5日
構成団体	自治会(境川・北・緑丘23自治会)、社会福祉協議会、小学校、中学校、PTA、地域包括支援センター
該当地区	上野口町、天満町、石垣西一～三丁目、石垣東一～三丁目、元町、北浜一～三丁目、南的ヶ浜町、北的ヶ浜町、弓ヶ浜町、京町、若草町、新港町、餅ヶ浜町、実相寺、荘園北町、東荘園、緑丘町
面積	約 3.86 km ²
人口	中部地区全体:16,850 人 15 歳未満:1,636 人 15～64 歳:9,873 人 65 歳以上:5,341 人 (令和6年7月末現在)
高齢化率	31.7%

〔別府市内図〕



「課題解決ワークショップ」で出た主な意見

第1回

知る

ワークショップの中で中部地区に潜在する課題を洗い出し、重要度の高い課題は何なのかを考えました。

■ワークショップで挙げた課題

キーワード：子ども、保護者世代の参加

実際の意見

- 町内で子どもが集まる機会が少なくなった
- 地域の子どものイベントがもう少しあると良い
- 子ども神輿が昔はあったがなくなった
- 保護者の時間と地域の人の時間を合わせるのが難しい
- 保護者が活動に出てこれない

キーワード：組織、活動

実際の意見

- 出てくる人が同じ人になる
- 自治会との連携が難しい
- ビジョンの一本化、取組の統一
- 顔が見える関係づくりを目指しているが難しい
- 活動に重なりが多い
- 地域全体で活動して各小学校と交流したい

キーワード：認知度、情報発信

実際の意見

- 協議会のことを知らない住民が多い
- LINE、メッセージ、書面で連絡しており、ツールが不統一
- 広報のやり方が難しい
- 規模が大きく回覧板が回りきらない
- 自治会の活動を伝えづらい

キーワード：多世代交流

実際の意見

- 多世代交流が必要
- 高齢者と若者のつながりが少ない
- 地域に新しく入ってきた人とのコミュニケーションがない
- 横のつながりが頼りない、少ない
- マンション住民との交流が難しい

キーワード：行事、イベント

実際の意見

- 今している行事に楽しい行事を追加するなどすればよい方向になるのではないか
- 子どもから大人までかわれる行事を増やしたい
- 神社や港を活用して協議会で集まる機会をつくってはどうか
- 今やっている清掃活動の後にイベントを肉付けしてはどうか

第2回

見る

中部地区が目指すべき姿を考えました。

第3回

創る

中部地区が実際に取り組みたいアイデアを出し合いました。

アイデア A

みんなが集い
交流できるように、
みんなで日の出を
見に行こう！

目指すべき姿

協議会の目的や
意義を共有する

アイデア C

誰もが集まりやすい
ログハウス風の
集会所をつくって
活動したい！

アイデア B

大人の部活動として、
誰もが気軽に
参加できる活動に
したいね！

わかりやすい
情報発信と
情報共有をする

住民同士が
つながりを
大切にする
地域にする

アイデア D

地踊りを復活させて、
子どもや保護者など、
色々な人を巻き込みたい！